



☆ 遺伝子と不登校 の巻 ☆

進化は遺伝子突然変異によって生じる。ダーウィンの進化論です。ところが、突然変異がなくとも、環境や生活習慣によって、遺伝子のスイッチがオン・オフされ、子どもに受け継がれることが分かって来ました。2万種類あるヒト遺伝子も、例外ではありません。

☆

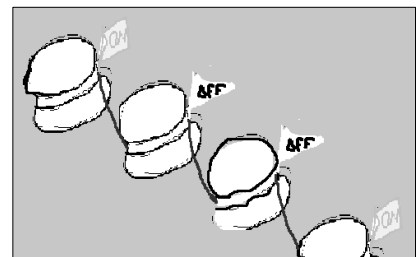
母親が受けたストレスは、おなかの子どもの遺伝子にもスイッチ作用を及ぼします。お母さんがストレスの少ない環境で出産や育児をすることの大切さの証明です。

ひどい夫婦げんかに子どもがおびえて泣いている。それが“虐待”となることをご存じでしょうか。暴言や暴力がある家庭の子どもは、遺伝子スイッチが切り替わり、我慢強く育たないのです。

ストレスが高い状態にあるネズミも、良い環境に移してやると、スイッチが元通りになることが、実験で証明されています。子どもをいじめる実験は出来ませんが、しくみは同じはずです。

★

どれくらいのストレスでスイッチが切り替わるのか、子どもによってまちまちです。同じ環境に置かれている子どもでも、不登校やパニックの起こり方が違うのは、そのせいです。



パニックを起こす子、不登校になりかけている子を、大声で叱っておびえさせる時だけでなく、他の子を大声で指導しても、子によっては、頑張りや我慢の限界を超え、不登校やパニックを起こすのです。子どもの叱り方には、じゅうぶん配慮しましょう。

★ ☆

時々、不登校なのか、ずる休みなのか、判断がつかない事もあります。不登校の子に、「おとなは仕事に行く。子どもの仕事は学校の行くこと。だから学校には行かないといけないのだ」と指導するおとながあります。

でも、おとなは休暇を取れますが、子どもには休暇がありません。春、夏、冬休みはありますが、2万種類の遺伝子の中に在る、ストレスに耐えるしくみの遺伝子が一つ、またひとつと切れていくのです。もう一度スイッチを入れなおすには、スイッチを切った時にかかったのと同じだけの時間が必要です。

もしかするとずる休みかもしれないけれど、一日、スイッチを戻す時間をあげても良くありませんか？今年、唐津市ではもう、百人以上の子が不登校になっています。